

# 全 国 水 土 里 ネ ッ ト 会 長 賞

## 1. 地区概要

参加団体名：富山県南砺市 福光町土地改良区  
 表彰地区名：吉江南部地区  
 事業名等：経営体育成基盤整備事業  
 工 期：平成10年度～平成20年度  
 主要工事：区画整理工A=116.6ha、暗渠排水A=9.1ha、客土A=5.8ha、近代化施設用地整備1式

## 2. 活動の概要

本地区は、昭和28年から昭和39年にかけて区画整理を実施し、小区画（10a）で農道も狭く（2～3m）、用排兼用水路となっており、大型機械の導入ができず営農上不都合が生じるとともに近年の作付体系に対応できなくなっていた。本事業は、これらの諸問題を解消することを目的とし、大区画ほ場整備事業に取り組み、国の水田農業確立対策に対応した低コスト化農業により地域農業の発展を図るため、平成10年度より着工し、平成20年度まで11年間の歳月をかけ完成となった。地区内では水稻、大麦、大豆以外に干柿が生産され、全国へ出荷されており、干柿組合も組織されている。このように本地区は、組合も組織されていたことから地元のまとまりもよく、本事業における担い手の集積も高い集積率となっている。また、工事においても、埋文包蔵地、環境配慮水路、10a小区画から1ha規模への大区画化、国営バイパスやJRなど様々な調整に対し、地元の協力により順調に進めることができた。

## 3. 受益地区における農家及び担い手の状況

（1）受益地区における農家数の状況

区 分	事業実施前	現 在
総農家数	113戸（ 1 戸）	113戸（ 1 戸）
うち専業農家数	1戸（ 1 戸）	1戸（ 1 戸）
うち兼業農家数	112戸（ 0 戸）	112戸（ 30 戸）
認定農業者	1人	1人
生産組織等（法人含む）	0組織	3組織

※（ ）は、担い手農家数

（2）農用地の流動化状況

項 目	事業実施前	現 在	目 標
受益面積	128.8ha	123.4ha	
担い手等の利用集積面積	50.9ha	108.3ha	108.3ha
①利用権設定面積	9.7ha	4.4ha	4.4ha
②受託面積	41.2ha	103.9ha	103.9ha

## 4. 農業経営状況

区分 作物名	事業実施前（10a当たり）			現 在（10a当たり）		
	労働時間	単 収	生産費	労働時間	単 収	生産費
水稻	40.6時間	489kg	150,056円	14.0時間	521kg	114,865円
大豆	22.5時間	228kg	83,658円	15.2時間	223kg	70,102円
大麦	9.3時間	337kg	48,207円	4.7時間	310kg	69,488円

区分 作物名	作 付 面 積 の 推 移		
	事業実施前	現 在	目 標
水稻	91.3ha（ 8.6ha）	102.0ha（ 89.4ha）	102.0ha（ 89.4ha）
大豆	21.0ha（ 1.2ha）	10.4ha（ 10.4ha）	10.4ha（ 10.4ha）
大麦	10.3ha（ 1.2ha）	11.8ha（ 11.8ha）	11.8ha（ 11.8ha）
その他（野菜・柿等）	7.4ha（ 0ha）	6.8ha（ 0.4ha）	6.8ha（ 0.4ha）
計	130.0ha（11.0ha）	131.0ha（112.0ha）	131.0ha（112.0ha）
土地利用率	100.9%	106.2%	106.2%

※（ ）は、担い手農家等の作付面積

## 5. 営農推進の状況

### (1) 栽培技術関係

#### <水稲>

- ・水稲直播は、当地区の水稲作付面積の1割程度に達しており、主力の条播、点播のほか新たに不耕起乾田直播の導入を進めている。移植（田植え）栽培に比べ、収量・品質もほぼ同等で省力的なため、今後も面積拡大に向けて取組みを図る。
- ・移植栽培及び直播栽培ともに「肥効調節型（全量基肥）肥料」を導入し、施肥回数を削減した。
- ・水稲、大豆及び大麦ともに、本田防除は産業用無人ヘリコプター（ラジコンヘリ）による防除を行い、効率的で省力的な防除に努めている。
- ・機械施設の更新は、組合員が中心となってこまめな修理点検による更新時期の延長に努めており、生産費の低減を図っている。
- ・稲わらは全てほ場にすき込みを行っており、あわせて一部組織では堆きゅう肥による有機物の施用による地力向上を進めている。

#### <大豆>

- ・耕起同時畦立ては種機を導入し、耕起～は種作業にかかる時間の短縮とともに、発芽・苗立率の向上を図っている。

#### <大麦>

- ・苗立ちの促進と生育・収量の向上のため、地区内全てで「ドリル播き」（条播）に取り組んでいる。
- ・また、肥効調節型肥料を導入し、生育の促進と省力化を図っている。
- ・大麦栽培跡のほ場に、土づくりの一環として緑肥作物（クロタラリア）のすき込みを行い、地力向上に努めている。

#### <野菜>

- ・畦立て同時部分施肥機を使用するとともに、テープシード技術を導入し、効率的、省力的な栽培を進めている。

### (2) 転作関係の状況

#### ①整備後の転作の状況（現況）

転作面積 29.0ha（事業実施前の転作面積 38.7ha）

#### ②転作作物名と作付面積

- ・大豆10.4ha、大麦11.8ha

#### ③新規作物等導入状況

- ・スイカ0.1ha、オクラ0.1ha

#### ④転作や新規作物の導入にあたって、特にPRすること。

- ・実需者から評価の高い「大豆」及び「大麦」について、新たな技術導入を進めつつ品質・収量の向上に向けて取組みを進めている。
- ・当地域は「富山干柿」の産地であり、（有）窪田農産では干柿の生産・加工に力を入れている。
- ・高宮営農組合では、複合経営の一環として、稲の育苗施設を活用したキュウリ、オクラ、スイカ及び露地菊、ヒマワリの生産に取り組んでおり、今後所得の拡大に向けて、技術水準の向上や品質向上等の取組みを図っている。
- ・（有）窪田農産では大カブやニンジンの栽培に取り組んでいる。

### (3) 農産物の加工、流通、販売などに向けた取組み

（有）窪田農産では農産物加工の一環として干柿を導入し、冬期間の労働力の確保を図っている。

高宮営農組合では、今後消費者への直売及び農産物の加工に取り組む計画をたてている。

## 6. 環境に配慮した取り組み

農業用排水路の整備に当たり、現況にゲンジボタルやカワニナ、ドジョウ等の水生生物が生息している水路改修に際して、これらの水生生物の生息が引き続き可能となるように自然石（現場発生材）を使った石積み護岸及び水路底は洗砂利を敷き詰めるとともに、水路幅を変化させることにより多様な流れを確保する工夫を行った。現在は、カワニナの生息が確認され、ホタルの飛来も見受けられている。

殿堂農組合では、農地・水・環境保全向上対策の一環として、畦畔の芝の植栽、地域の生活環境改善と農地における有効活用に向けて菜の花の栽培（約1ha）に取り組んでいる。

全ての営農（法人）組織では、水稲（移植、直播）及び大麦では、肥効調節型肥料を使用し、ほ場外への肥料成分の流亡を極力抑制し、用水等の水質の維持を図っている。

高宮営農組合では、野菜の生産に当たり、葉緑素計を用いた葉色診断による施肥技術に取り組み、適正な施肥量を厳守している他、化学合成農薬、肥料を使用しない「有機米コシヒカリ」の生産に取り組み、環境にやさしい農業に努めている。

## 7. その他事業実施の効果による新たな取り組み

### （1）余剰労働力の活用方法について

（有）窪田農産及び高宮営農組合では、園芸部門や干柿の加工などの新規作物の導入を行い、労働ピークの改善と冬期間の農閑期の労働力の活用を進めている。

### （2）新たな雇用の場の創出

地区内の認定農業者の経営者の交代に伴い（有）窪田農産を設立し、経営の安定と新たな雇用力の拡大に取り組み、後継者（長男）及び従業員2名（30代）の雇用を行っている。

### （3）その他

（有）窪田農産では、従業員のオペレーターの育成を関係機関（農協、普及指導員など）と連携して進めている。

高宮営農組合及び殿堂農組合では、20～30代の構成員の後継者の育成を、営農組合及び関係機関（農協、普及指導員など）と連携して進めている。

## 8. 行政や関係者が「事業計画、施工、利活用など」において苦労した点

10aの小区画から1haへと大区画化を図ったことと、埋蔵文化財包蔵地があり保護盛土が必要になったことから水路等との高さなどの調整が大変だった。また、保護盛土に関しては、事業費が大きくなるように公共残土の受入れの調整を積極的に行った。その他にもJR沿いの工事や国営バイパスの施工などがあり、その調整に苦労した。

## 9. 周辺地域への波及効果及び将来の展望

旧福光町では地域における担い手の明確化・育成を図るために担い手規模拡大農家の認定を行ってきた。また、むら機能の維持・発展を目的とし集落営農組織の発展を図ってきた。本事業への取り組みにより、協業形態の集落営農組織を育成することができ、当該組織などへの農地の集積も進んでいる。また本事業を契機に近接地区においてもほ場整備の気運が高まり、農地の集積も加速度的に進めることができた。

今後とも農産物の効果的かつ安定的供給を図るため、基幹作物である水稲を始めとし、転作作物の大麦・大豆、大根、白菜、干柿等の振興を推進するとともに、大区画ほ場整備事業等の導入による優良農地の確保・土地の高度利用を図り、低コストを目指し認定農業者や中核農家への農地の集積・集落営農体制の確立を推進していく。



大型田植機の導入



ラジコンヘリコプターで防除



大型ほ場での稲刈り



大型コンバインの導入



大豆の畝たて



大麦の防除